

建設分野の魅力 第25回



講義、現場見学、卒業生の体験談をふまえ、6班に分かれてグループ討議を行う

グループ討議

卒業生による話や現場見学を終えた生徒たちは最後に6班に分かれてグループ討議を行った。「建設業の魅力(よいところ)」「建設業の課題(悪いところ)」「理想の建設業に向けた提案の3点について意見を話し合った。

やりがいにも魅力：多数

それぞれの班では、各テーマについて付箋に自分の意見を書き込みながら、出てきた意見の傾向を模造紙にまとめて整理。魅力を課題を踏まえて提案内容を書き、6班それぞれが討議内容について発表を行った。

「建設業の魅力」で多く出されたのは、「形として残り、家族や友人に自慢できること」「みんなが協力しながら進める達成感や誇り」など。一方で、「建設現場での災害から守ったり、生活を便利にする、地域の人から感謝される」といったやりがいに関する意見が出された。一方で建設業の課題としては、「夏は暑くて冬は寒く」「事故が多そう」「残業が多そう」「お給料が低い」「女性の進出が少ない」といった意見も出された。

職場環境や新技術に期待

「たくさんの洋服の中から自分の好きなものを選ぶようにする」「建設業の魅力はPRする動画を作る」「ドローン体験やVR体験など、子どもに建設業の魅力に触れてもらう」など職場環境に期待する意見が出された。また、建設業の魅力を伝えるための動画制作や、建設現場の見学や体験など、子どもに建設業の魅力に触れてもらうなどの提案が出された。



各班ごとに発表。それぞれ個性的な提案がなされた



「令和路線橋」の完成イメージ。左側が北で、東西を走るJR山陽本線をまたいでいる



人を笑顔にする仕事

構造物のスケール実感

授業では、実際に工事が行われている様子を見学して感じてもらう。3月末の供用開始に向け大詰めが行われている。「主要地方道第17号の線松原跨線橋道路改良工事(第3工区)」の現場を見学した。



3月末の供用開始に向けて大詰めが行われている「令和路線橋」の現場を見学し、いざいざ、たつの市担当部署

松原跨線橋道路改良工事の現場見学

松本元貴さんはたつの市職員で、2年前から同事務所に出向している。現場に向かう途中、脚の補強工事が行われていた。

兵庫県 龍野土木事務所 松本元貴さん



株式会社前田組 工事部長 堀田真人さん



パワーショベル試乗、転圧機体験も

今回見学したのは同工区中、JR山陽線をまたぐ松原跨線橋北側の道路改良部分だ。正式名称が「令和路線橋」と決まり、現在、橋名板を備保小学校児童たちのデザインをもとに工事製作中だという。現場に着いた生徒たちは、完成前の跨線橋を歩き、構造物の大きさを体験した。橋の長さには全長301m、5つの日本の桁を組み合わせて工事が行われている。また、線路の真上の部分はJR西日本が工事を担当し、電車が走らない夜間に工事が行われていることなどを説明。次に道路改良工事を担当している西播磨地域を基盤とする株式会社前田組(六丁町)のこの後、パワーショベルの試乗体験が行われ、真先に手の平がたつ生徒3人が運転席に乗り込んだ。また、砕石を平たんにならして固めるプレートコンパクター(転圧機)の操作も3人が体験。その一人、山根紗耶さんは「思うようにまっすぐ進まなかったけれど私も操作できるんだとわかった」と感想を述べた。



パワーショベルに試乗し乗り心地を体験

仕事の魅力伝える立場に

長寿 武さん



父が家の設計の仕事をしている。私も同じ仕事に就き、さまざまな世代の人が集まれる施設、帰ってきたくするような家を造りたい。やりがいを感じられる仕事である一方、わずかなミスが大きな損害につながる怖さもある。父からも業界に若い人がなかなか入ってこないという話を聞いていたが、私自身が建設業の仕事の魅力若い人たちに伝えていきたい。

安らげる施設設計したい

八木美菜さん



父が建築関係の仕事に携わっており私も建設業の仕事に興味を持った。大変そうなお仕事だが地区に残る仕事でありやりがいを感じられる。建設業は男社会のイメージが強いが、今日小西さんのお話を聞いて職場や現場に女性が活躍していることを実感できた。将来は設計士を目指しており、多くの人が心安らげるような公園や住宅を設計できればと思っている。

体験授業を終えて

安全で人に優しい道路を

近藤史弥さん



筋肉が弱ってしまう病気の祖母が段差にたつまずくのを見て、そうなることがないような建築物を造りたいと思っている。建設業に対しては休日が少ない、残業が多いといったイメージがあったが、今日の授業を通じて改善が進みつつあることを知ることができた。将来は建設に関わる地方公務員の仕事に就き、安全で人に優しい道路を造りたい。

巨大な構造物を造りたい

中塚俊真さん



明石海峡大橋のような大きな構造物を造る仕事に携わりたいと思い入学した。今日の授業を通じ、建設業においても働き方改革が進んでおり、しっかりと休みが取れ、残業も少なくなっていることがわかった。将来は、建設業に進むか、製造業に進むか迷っているが、どちらでもあれものづくりを通じて、世の中の人の安全、安心のために貢献したい。

龍野北高生に体験授業

後世に、そして地図に残る仕事としてやりがいを感じることでできる建設業の仕事。ただ、きつい、汚れる、といった古くからの業界イメージから脱却できていないのが現実だ。そこで若い世代の高校生に建設業で働く人の生の声や、工事現場を実際に見ることで建設業の今を感じてもらおうと、このほど兵庫県立龍野北高校環境建設工学科の2年牛39人を対象にした体験授業が行われた。生徒たちは建設業に従事している卒業生の話や現場見学、グループワークなどを通じ、建設業への興味を深めていた様子だった。

建設分野の魅力 第25回



(取材協力=兵庫県建設業育成魅力アップ協議会)

若い力が築く新時代

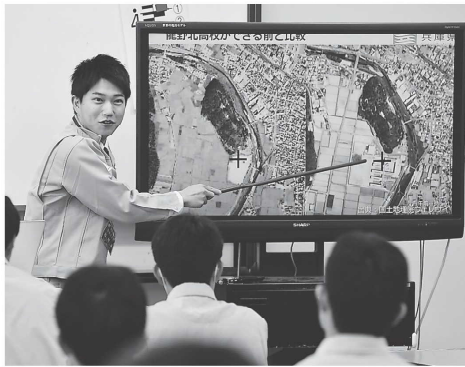
建設業は、ものづくりを通じ、人々の命を守り、人々を笑顔にすることができ、大きなやりがいのある仕事だ。自ら携わった仕事が形として未来に残り、折に触れ、自分が造ったと誇らしく思える。

建設業の担う役割について身近な事例を紹介しよう。まず、安全・安心の確保。佐用町内では、2009年に起きた水害からの復旧のため、大規模な河川

改修が行われた。また、土砂災害や大型土のうの設置など、災害時の緊急対応も地元建設業者が期待される大きな役割だ。

さらに、にぎわいのあるまちづくりにも不可欠。この数年、JR姫路駅周辺が整備事業が進んでいるが、鉄道施設の高度化、南北幹線道路の整備、区画整理事業など、いずれも建設業が担っている。

このように重要な役割を担う



「建設業の魅力と課題」をテーマに講義する兵庫県土木整備部 県土企画局技術企画課の西林恒一さん

県職員が建設業の役割解説

一方で、建設業の就業人数は1997年をピークに減少している。高齢化が進み、担い手確保が深刻な課題だ。そこで建設業の魅力を高めようと、業界を挙げて働き方改革に取り組んでいる。

まず、休みを増やすために、週休2日制の導入に努めている。休みのないイメージのある建設業だが、2018年の兵庫県発注の土木工事では、4割の受注業者が4週7休(土日)を達成。4週7休(同)になる2割になる。

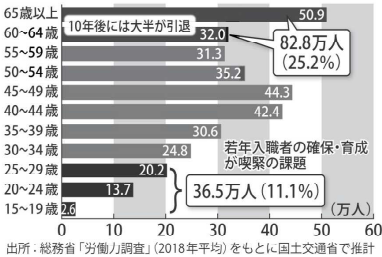
次に、給料を上げよう。単価の改善などに取り組んでいる。厚労省の統計によると、建設業の平均給与は年々上昇しており、以前は全産業に比べて下回っていたが現在は逆転している。また、能力評価が曖昧だった職人の職務経歴、保有資格などをICTチップのついたカードに記録していくことで客観的な評価を可能にする、建設キャリアアップシステムの導入が19年4月より全国的に始まっている。

生産性を向上するため、建設現場では測量や施工にICT(情報通信技術)の導入を急速に進めている。3次元データを取得できるドローンやレーザースキャナーを用いることで、工

事現場の測量業務を省力化できる。また、3次元の設計データを建設機械に取り込み連動作業に示す「掘削範囲を画面で確認しながら操作できる」という「掘削」作業も必要となる。建設機械の操作は以前なら熟練技術が必要だったが、経験の浅い若者でも高精度に効率よく作業できるようにした。

休日増や給料改善、ICT導入も

■年齢階層別の建設技能者数



建設の仕事に携わる3人の先輩の話に耳を傾ける生徒ら

卒業生からのメッセージ

龍野北高校の卒業生でそれぞれの立場から建設業の仕事に携わっている3人に、仕事の内容や会社の雰囲気などを語ってもらった。

上林建設株式会社(宍粟市)
小西有希さん



入社して4年目になる。高年1回の個人相談は自由に行き来して、建設に関わることを学んだのでこれを生かせる仕事に就きたいと思った。それが実現した。入社前は汚い人がこわそう、残業・休日出勤が多そうというイメージだったが、実際は清潔な職場環境もあって、残業も休日出勤もそんなにない。業務内容は事務仕事全般で、請求書、見積書の作成、地籍図の準備など。200日に休めるかを常に考え、お休みをするときがあるが、実際に仕事を受注できたときの達成感は大変大きい。中小企業なので、社長の距離も近い。

女性も働きやすい環境にしたい。現場でもっとすれば土日に休めるかを常に考え、お休みをするときがあるが、実際に仕事を受注できたときの達成感は大変大きい。中小企業なので、社長の距離も近い。

女性も働きやすい環境

晃進建設株式会社(姫路市)
奥居 猛さん



入社前は土木といわれて、こわいイメージがあったが、仕事は面白くて、女性も働きやすい環境にしたい。現場でもっとすれば土日に休めるかを常に考え、お休みをするときがあるが、実際に仕事を受注できたときの達成感は大変大きい。中小企業なので、社長の距離も近い。

達成感ややりがい強く

事業全工程に携われる

兵庫県
光都土木事務所
松尾優亮さん



入社後、新温泉土木事務所4年、豊岡土木事務所2年半、全庁の公園緑地課で3年半、現在は光都土木事務所勤務している。

特に印象に残っているのは、新温泉土木時代に担当した、余部鉄橋周辺での道の駅「あまの」(空の駅)の整備事業。100年以上の歴史を持つ鉄橋の一部を現地に残り、道の駅周辺に公園を整備した。また、鉄橋を活用した展望施設、空の駅も整備した。豊岡では、北近畿自動車道につながる二つのアクセス道路の整備を担当した。いずれも大きな事業で、これらを手掛けたことが、その後仕事を上

で大きな自信になった。現在、光都では、土石流を防ぐため、人命や財産を守る砂防事業や、人家に近接した崖地の崩壊防止工事など、地質対策事業を担当している。

県の技術系の公務員として誇れるのは、計画、測量、設計、工事と事業の全ての段階を担当できるところだ。自ら計画した施設が出来ることが、誇れる。また、現場で技術系公務員の魅力を感じた。また、進んだものが地図に残る。感謝されることへのやりがいを感じる。みんなと一緒に仕事をできるのが好き。